

平成31年度 全国学力・学習状況調査結果

資料1

1 調査の概要

- (1) 調査期日 平成31年4月18日(木)
- (2) 調査を実施した児童・生徒数(学校数)
 - ◆小学校6年生 9,524人(255校)
 - ◆中学校3年生 8,766人(122校)

※調査対象児童生徒が在籍する、市町村立小中学校(義務教育学校含)・県立中学校・県立特別支援学校

<調査の目的>

□ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

(3) 調査内容

- ◆教科に関する調査：国語、算数・数学、英語(中学校のみ)
 - ◆児童生徒に対する質問紙調査、学校に対する質問紙調査
- 新学習指導要領の趣旨(知識・活用は相互に関連)を踏まえ、H31調査から、「A知識」「B活用」の区分を分けずに一体的に出題。
➢ 中学校英語は、初めての実施。

2 結果の概要(教科別平均正答率)

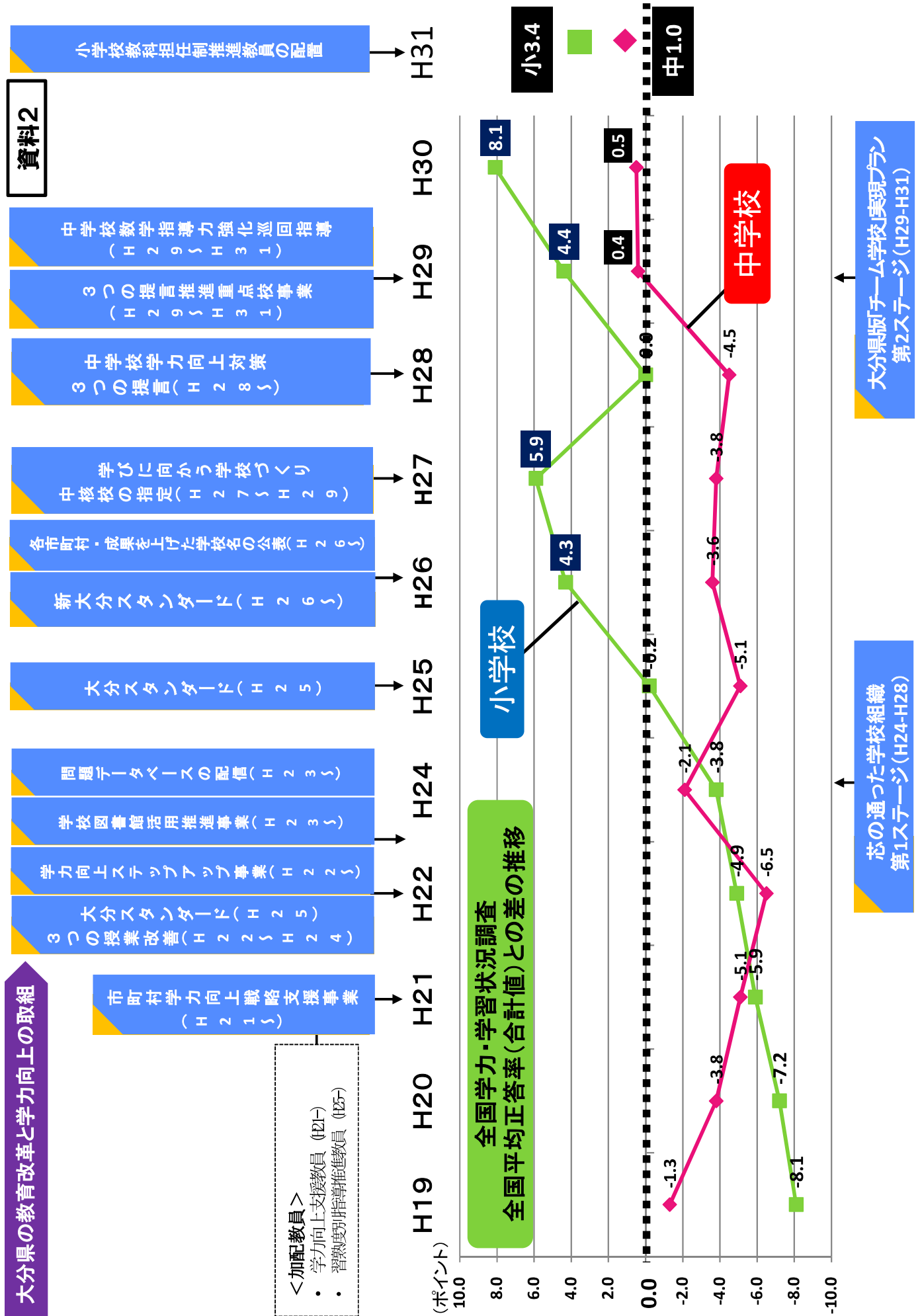
小学校

- 全ての教科で、全国平均以上となり、合計値は全国値を3ポイント上回る。

中学校

- 課題であった数学が全国平均を上回り、合計値は全国値を1ポイント上回る。
- 初めて実施した英語は、全国平均に届いていない。

対象児童生徒 教科	小学校6年生		合計	中学校3年生		合計
	国語	算数		国語	数学	
H31大分県 (公立)	67	67	134	74	61	190
H31全国 (公立)	64	67	131	73	60	189
全国値との差	+3	0	+3	+1	+1	+1



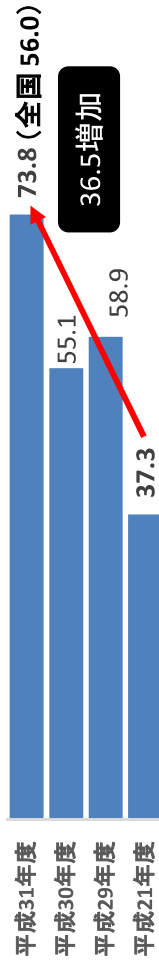
学校質問紙及び生徒質問紙から見えてくる中学校学力向上の要因

資料3

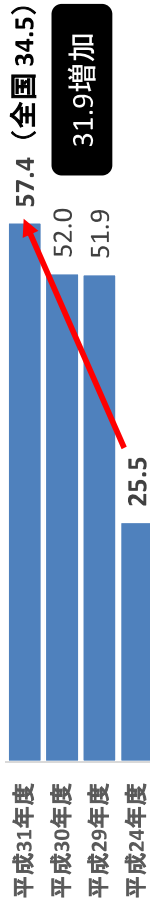
「中学校学力向上対策3つの提言」を踏まえた各学校の指導の改善

1 校長のリーダーシップのもと、組織的な学校運営・授業改善の取組が増加

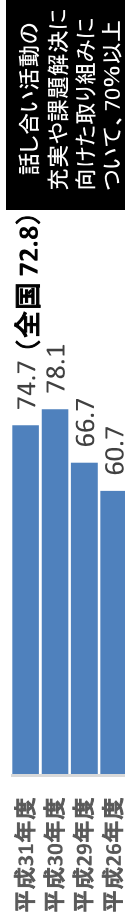
① 授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っていますか(学校質問紙)



② 平成30年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか(学校質問紙)



③ 生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか(生徒質問紙)



④ 1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか(生徒質問紙)



2 教科部会の充実及び中学校数学指導力強化巡回指導の実施

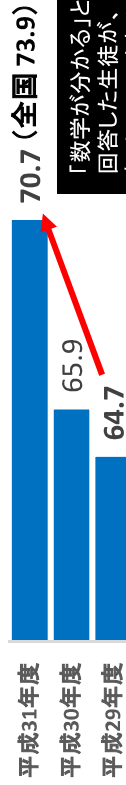
① 巡回指導の内容と実施状況

県内全ての中学校数学教員の授業を参観し「学びに向かう力」と「思考力・判断力・表現力」を育成する授業づくりに向けて協議及び教科部会で協議
大分市は「数学マイスター」が巡回指導を実施

実施状況

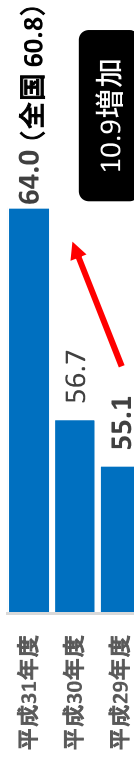
平成29年度	○1巡回.. 96校 194名	○2巡回.. 96校 197名
平成30年度	○1巡回.. 95校 211名	○2巡回.. 95校 208名
平成31年度	○1巡回.. 90校 206名	○2巡回.. 9月から実施

② 数学の授業の内容はよく分かりますか(生徒質問紙)



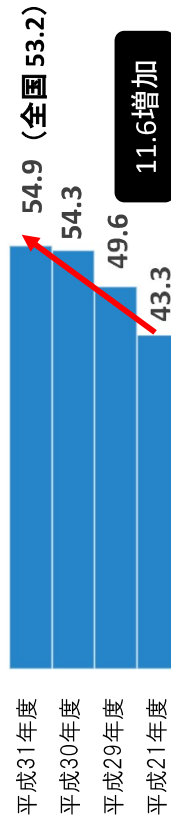
③ 言葉や数、式を使って説明する問題がありましたか、どのように解答しましたか(中:53)

➢ 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した生徒の割合



3 「生徒と共に創る授業」の浸透

① 生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか(学校質問紙)



中学校英語の現状と課題

資料4

全国学力・学習状況調査結果

英語の平均正答率

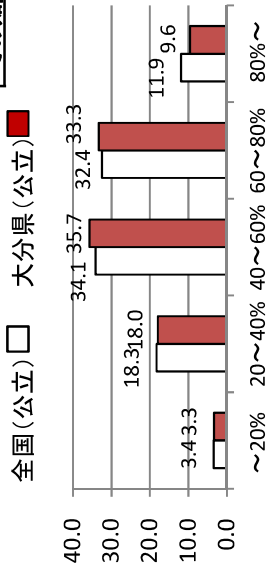
教科	英語
大分県	55
全国	56

領域別・観点別の平均正答率

領域	県	全国平均
聞くこと	66.4	67.9
読むこと	55.3	55.6
書くこと	45.4	45.8

観点	県	全国平均
外国語表現の能力	1.7	1.8
外国語理解の能力	43.1	44.7
言語や文化についての知識・理解	64.3	64.7

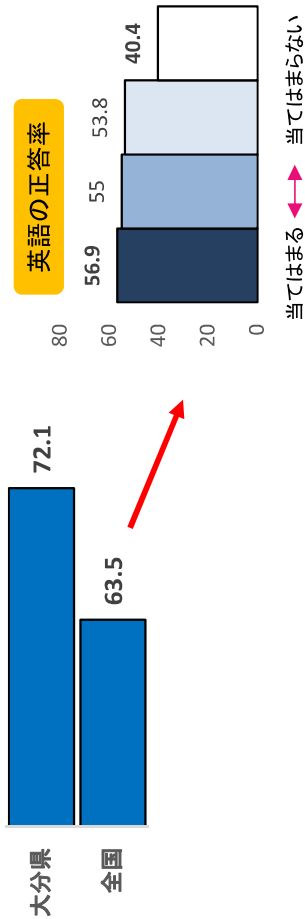
平均正答率の度数分布



○低学力層の割合は少ない。
▲全国と比べて上位層が少ない。

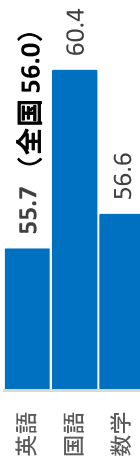
1 指導の状況

①聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする言語活動を行いましたか(学校質問紙)

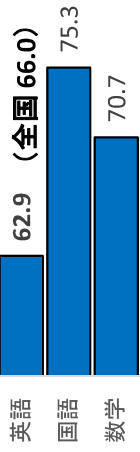


2 英語に対する生徒の意識

①英語の勉強は好きですか



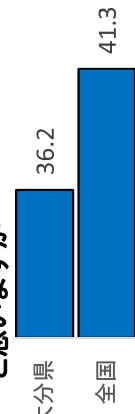
②授業の内容はよく分かりますか



③英語の勉強は大切だと思いますか



④将来、積極的に英語を使うような生活をしたたり職業に就いたりしたいと思えますか



⑤英語を聞いて概要や要点をとらえる言語活動を行ったか



⑥原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う言語活動を行ったか



3 課題

- 授業改善が十分でない3割程度の学校の授業改善
- 言語活動を通して付けたたい力の明確化及び「振り返り」の充実
- 単元における文法の定着や語彙の拡充の場の位置づけ
- 生徒の英語学習への意欲の向上

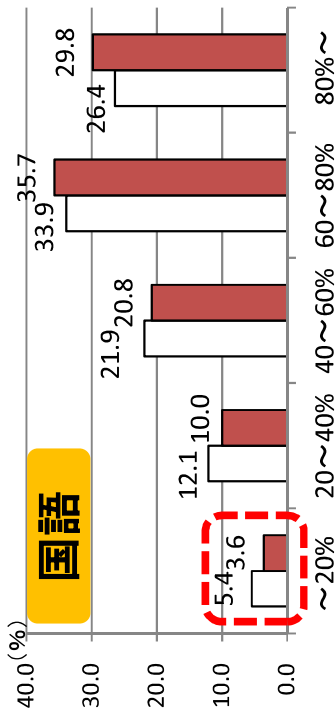
平均正答率の分布一覽

資料5

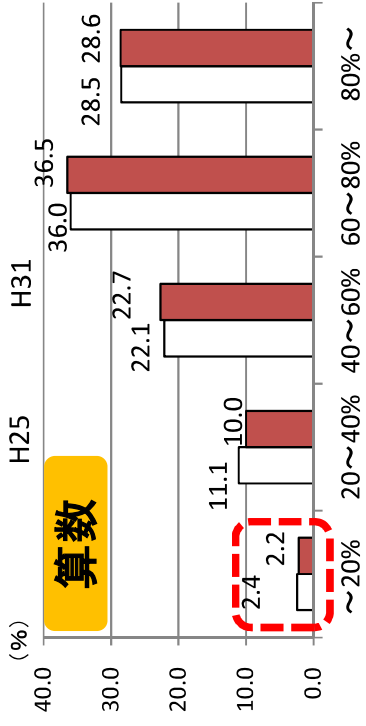
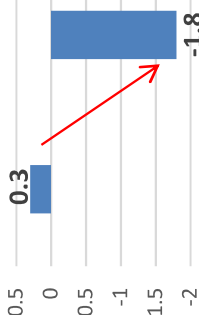
小学校

中学校

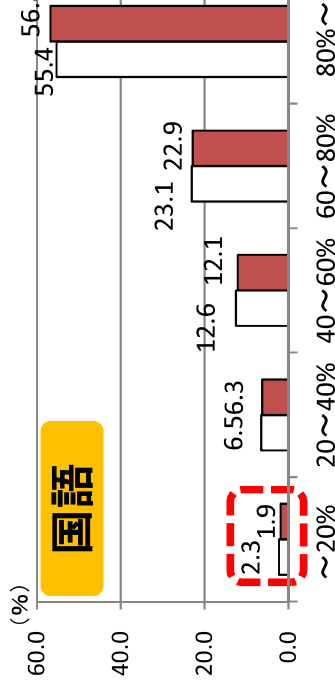
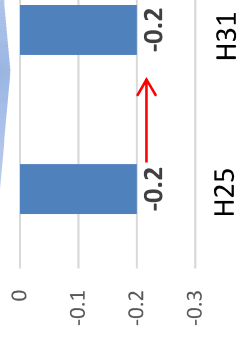
□ 全国 ■ 大分県



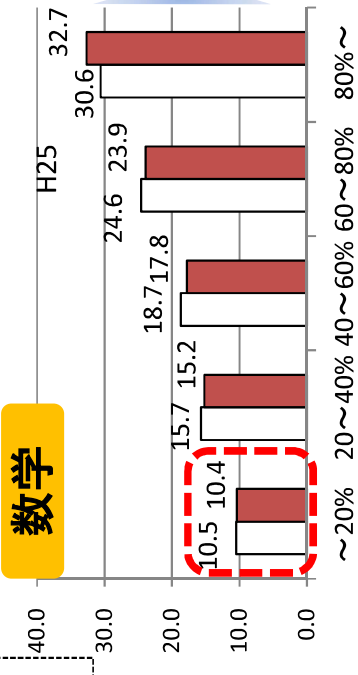
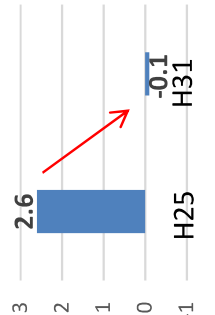
低学力層の割合の全国平均値との差の推移
平成25年度調査と比べると、2.1%低学力層の割合が減っている。



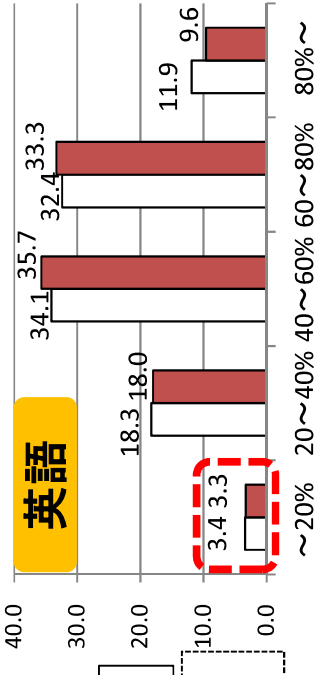
低学力層の割合の全国平均値との差の推移
平成25年度調査と比べると、低学力層の割合は同じである。



低学力層の割合の全国平均値との差の推移
平成25年度調査と比べると、0.6%低学力層の割合が減っている。



低学力層の割合の全国平均値との差の推移
平成25年度調査と比べると、2.7%低学力層の割合が減っている。



低学力層の割合の全国平均値との差
全国平均と比べると、0.1%低学力層の割合が少ない。

平成31年度大分県学力定着状況調査結果

資料6

1 調査の概要

(1) 調査期日 平成31年4月23日(火)

(2) 調査を実施した児童・生徒数(学校数) ※国県私立学校を含む。
 [小学校5年生] 9,867人(256校)
 [中学校2年生] 9,083人(127校)

(3) 調査内容 児童生徒に対して、学習到達度調査(「知識」及び「活用」)と総合質問紙調査を実施。
 ※全国で小学生約10万人、中学生約9万人が参加。

2 結果の概要(教科別偏差値平均)

対象児童 教科	小学校5年生					
	国語		算数		理科	
区分	知識	活用	知識	活用	知識	活用
県全体	52.2	51.7	52.3	52.2	52.3	51.4
市町村立学校	52.1	51.6	52.2	52.1	52.2	51.3

対象生徒 教科	中学校2年生									
	国語		数学		理科		英語		社会	
区分	知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用
県全体	52.0	50.8	51.1	51.1	51.2	50.7	50.7	50.8	50.8	50.5
市町村立学校	51.8	50.5	50.7	50.6	50.9	50.5	50.3	50.3	50.5	50.3

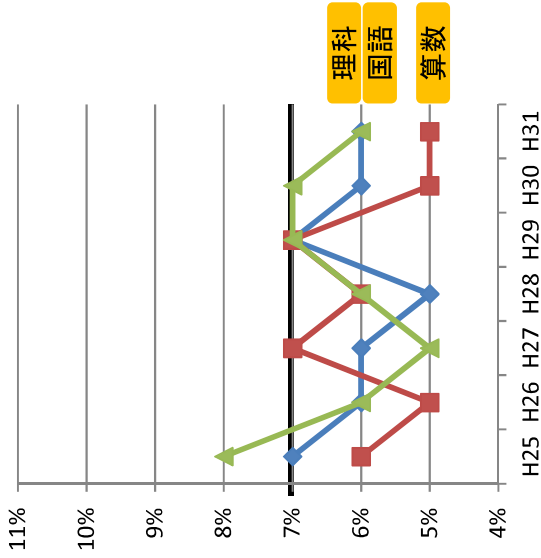
偏差値の5段階分布と低学力層(偏差値34以下)の推移

資料7

偏差値	34以下						
	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
国語	7%	6%	6%	5%	7%	6%	6%
算数	6%	5%	7%	6%	7%	5%	5%
理科	8%	6%	5%	6%	7%	7%	6%

小学校 (市町村)

- H31低学力層の割合
- ・ 全ての教科で標準(7%)未満。
- ・ 昨年度と比べると、理科が減少。

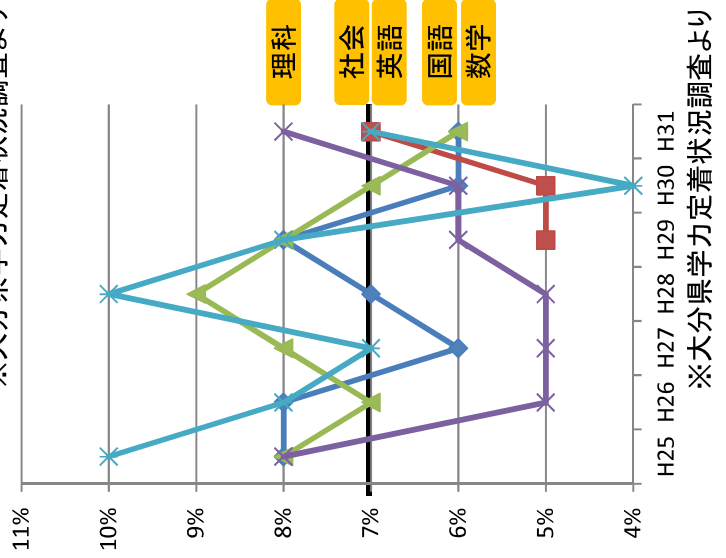


※大分県学力定着状況調査より

偏差値	34以下						
	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
国語	8%	8%	6%	7%	8%	6%	6%
社会					5%	5%	7%
数学	8%	7%	8%	9%	8%	7%	6%
理科	8%	5%	5%	5%	6%	6%	8%
英語	10%	8%	7%	10%	8%	4%	7%

中学校 (市町村)

- H31低学力層の割合
- ・ 理科以外の教科で標準(7%)以下。
- ・ 昨年度と比べると、数学が減少。



※大分県学力定着状況調査より